

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	生徒の学校評価の「毎日の授業を真剣に受けている。」「ICTなどを使った授業はわかりやすい。」など。保護者の学校評価の「教職員はICTなどを活用し、確かな学力定着のために日々取り組んでいる。」に肯定的な回答が 4: 85%以上 3: 62%以上 2: 52%以上 1: 52%未満	3	・GIGAスクール構想の実現に向けてICTを活用した授業やオンライン学習は定着してきた。ICTを活用したわかりやすい授業に関して肯定的な回答は生徒84%保護者73%であった。 ・数学の習熟度別授業や英語の少人数習熟度別授業により個に応じたきめ細やかな授業ができた。 ・学習補助員による補習は、受講態度に集中力と真剣さが増し、高い率で検定試験の合格者を出すことができた。今後、受講者をさらに増やしていくことが課題である。 ・学習効果測定を基に授業改善プランを作成し、授業にいかすことができた。また、小学校との研修会でも授業改善プランをもとに話し合い、学習指導の連携を図ることができた。	A	4	○まだまだ授業を見学できる機会が少ないが、我々協議会の委員には昨年より多くの案内を得ている。 展示発表されているものから全体的にいい指導、取り組みがなされていると感じている。ただ、残念ながらいろいろな意味での格差は広がっている気がし、OJT等でいかにスキルアップに結びつけられるか今後の取り組みに期待している。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2				B	4	○「一人1台端末」の活用について、中学校の状況を教えていただきたい。 ○学校公開を参観しどの学年もICTを活用した授業を積極的に取り入れていることがとてもよく分かりました。先生方が熱心に指導され生徒も真剣に聞いている様子が伺えました。タブレットの活用やICTを活用した授業が定着してきたと感じました。
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3				C		○多くの生徒は一生懸命学習に取り組んでいます。学力については分かりませんが、必ず結果がついてくると思います。 ○学習カルテや学習履歴などをもとに、前向きな会話が家でも学校でも出来ると良いと思います。
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4				D		○小中連携をさらに充実し学習面や生活面でのサポートをしっかりとしていくことが必要と考える。
		GIGAスクール構想の実現に向けた取り組みを推進し、全教科でICT機器を積極的に活用し、自ら資料や教材の工夫を通し、授業の幅を広げ授業力を高めていく。	4:全教員で行った。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3						
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	生徒の学校評価の「中学校での自分の生活は、充実していると思う。」及び保護者の学校評価の「学校は、子どもに命の大切さや思いやりの心を育てている」に肯定的な回答が 4: 85%以上 3: 62%以上 2: 52%以上 1: 52%未満	3	・生徒は、「安心して学校生活を過ごしている」89%、「社会のきまりやルールを大切にしている」94%、「命や思いやりの心を大切にしている」95%。そして保護者は、「学校は、子供に命の大切さや思いやりの心を育てている」76%が肯定的な回答だった。 ・教員も「ふれあいタイム」として、休み時間や自分の空き時間も学年フロアにいて、生徒とのふれあいを大切にしている。 ・「学校いじめ防止基本方針」について教員が理解し、学校生活調査やハイパーQ-Uの結果に応じて面接を繰り返すなど早めの手を打ち対応してきた。また、関係諸機関との連携も図った。 ・道徳授業地区公開講座では事前に講師による職員の研修を行った。当日は授業公開の後、講演会を開き、参加者は多くはなかったが、地域の方や保護者の方とともに共通のテーマで話し合う機会が持った。 ・地域の方や保護者の方と連携し、さらに「心の教育」を推進していくことができるか課題である。	A	3	・道徳授業地区講座をなるべく全体的にクラスを回り、子ども達が持つ視点、正義感、ものごとの捉え方、クラスの中での取り組み等大変興味深く、上手に子ども達の意見を引出し当てるクラスとそうでないクラスの格差を感じた。 共通の認識を持てる。人の意見を聞ける、自分の意見や考え方を伝えられるか、そのような大切な部分を指導している教員がいてくれたことは心強く感じられた。 日頃からのクラスの良さ、生徒との関係をしっかりと感じさせてくれるところも見られて良かった。 ○先生方は大変だと思いますが、先生方と子ども達が係わる時間は大切だと感じています。「ふれあいタイム」は継続いただきたい取り組みの一つです。 生徒による数値が高く、安全な環境の中で学びが行われていることが分ります。 ○生徒は学習や部活などで充実した学校生活を送っている様子が見え、家庭も協力して余裕のある生活を送って欲しい。心の余裕は大切です。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	2				B	5	○自己肯定感と他者への肯定感・信頼感は相関していると思います。 ○他者を肯定して他者を信頼できる人になって欲しいと心から願います。 ○地域でも中学生が落ち着いた行動している様子が見られる。
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3				C		○道徳地区公開講座は、日時をお知らせする時期や時間設定などを工夫しながら保護者・地域にもっと参加してもらいたいと感じる。
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4				D		
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3						
		人権感覚を磨くとともに生徒に寄り添った指導を基本として、ハイパーQUを活用しながら教員集団が「ONEチーム」となって、生徒理解を深め、よりよい集団作りを推進する。また、心の教育を大切に、相手の立場に立って考えられる生徒を育てる。	4:全教員で行った。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4						

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄						
								評価	人数	コメント				
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4: 全教員で行った。	4	生徒の学校評価の「自分は、運動を積極的にを行い、体力をつけている。」および保護者の学校評価の「学校全体で部活動を活発にしようと努力している。」に肯定的な回答が	4:	・「朝ご飯や給食をしっかり食べている」については、生徒の87%が肯定的な回答であった。運動を積極的にを行い、体力をつけているに肯定的な意見は、生徒66%保護者60%であった。しかし、3年ぶりに開催された大田区陸上競技大会や部活動などでは大きな成果を上げることができた。 ・黙食の給食の後、昼休み校庭で走りまわる生徒が生きておき、男女共修の保健体育の授業は2年目を迎え定着してきた。 ・健康への意識も高い。今後、さらに健康への意識を高めさせ、運動の習慣を身につけさせることが課題である。	A	7	○体育祭も厳しい環境下で練習も大変だったかと思いますが、良くまとまり、全体のラジオ体操の姿には参加していた地域の方からも出雲の伝統であり素晴らしいと言ってもらえた。子ども達を中心になって運営している形に指導している教員の努力はしっかりと感じられた。内容も工夫され、考えられている印象で何よりも子ども達の顔が良かった。 部活も活発にできておりよく指導されていたと思う。 ○コロナ対策をしながら体育や部活動もしっかり実施していただいているので生徒は常に体を動かしているように感じます。 男女共修の保健体育の授業を参観してみたかった。 ○食事や体力については、家庭の協力が不可欠です。学習だけでなく部活でも生徒が生きて学校生活を送ることが出来ると思います。 ○義務教育中に自己の健康についてきちんと学ぶ機会の必要性を感じている。(心の健康も含めて) ○朝ご飯をしっかり食べてくるということはとても大切であり、学校と家庭と連携して進めていきたい。				
			3: 80%以上の教員で行った。								4	3:		
			2: 60%以上の教員で行った。										4	2:
			1: 60%未満であった。											
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4: 全教員で行った。	4	3:									
			3: 80%以上の教員で行った。			4		2:						
			2: 60%以上の教員で行った。						4		1:			
			1: 60%未満であった。											
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4: 全教員で行った。	4	2:									
			3: 80%以上の教員で行った。			4		1:						
			2: 60%以上の教員で行った。						3		3:			
			1: 60%未満であった。											
新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りながら、生徒の活動する機会を保障し、より効果的な運動習慣や生活習慣を身に付けさせ、健康への意識を高める。	4: 全教員で行った。	3	1:											
	3: 80%以上が回答した。			4	2:									
	2: 60%以上が回答した。					3	3:							
	1: 60%未満であった。													
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	生徒の学校評価の「先生は、わかりやすい授業を行い、楽しく学習ができる。」および保護者の学校評価の「分かりやすい授業を実施するために日々取り組んでいる」に肯定的な回答が	4:	・「わかりやすい授業、そして学習のつまずきについての指導助言」に関して肯定的な評価する生徒は85%で、保護者の値は54%であった。授業改善とともに保護者に授業の取組を伝える機会を増やしていくことが課題である。 ・指導課訪問や校内研修会などの機会を利用して指導力向上を図った。ICT活用はかなり定着してきた。 ・SRが開設されて3年目となり、特別支援教育推進の機運も高まっている。個に応じた適切な指導では、専門員や支援員らの力も大きい。 ・持続可能な社会の創り手としての能力や態度の育成を目指し、SDGsに関して、各学年テーマを掲げ、講師を招き学習を深めることができた。	A	4	○今年度もゆつくりと授業参観する機会は少なかったが、道徳地区公開、合唱祭、展示発表等我々協議会委員にはしっかりと案内してくれて見学することが出来た。教室内は、落ち着いているクラスが多く授業もしっかり成り立っている。 ○保護者は、学校公開の時に授業を見るくらいなので「学習のつまずきの助言」に関しては、見えないところだと思います。もう少し授業の取り組みを伝えたり参観の機会を作るとより伝わると思います。 ○今年度は入学式にも参加させていただき、以前よりも学校に行く機会が増えました。生徒達の授業中や休み時間の様子も良かったです。落ち着いてきました。 ○先生方は大変忙しくICTやアクティブラーニングなど新しい取り組みの中でご苦労が多いと思う。学校の枠を超えて広い分野で相談できる人や場所が必要ではないかと思う。				
			3: 80%以上の教員が回答した。								3	3:		
			2: 60%以上の教員が回答した。										4	2:
			1: 60%未満であった。											
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4: 学期に2~3回(年間6回)以上行った。	3				3:						
			3: 学期に1回(年間3回)以上行った。						4		2:			
			2: 年度間に1回以上行った。									4	1:	
			1: 実施しなかった。											
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。	4				2:						
			3: 80%以上の教員が回答した。						4		1:			
			2: 60%以上の教員が回答した。									3	3:	
			1: 60%未満であった。											
校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4: 月1回以上行った。	4	1:											
	3: 学期に2~3回行った。			4	2:									
	2: 学期1回以上行った。					3	3:							
	1: 実施しなかった。													
持続可能な社会の創り手として必要とされる能力や態度の育成を目指し、学習形態を工夫し、主体的・対話的で深い学びの実現に向け授業改善を推進し、問題解決能力の育成「思考力」「判断力」「表現力」に努めていく。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	3:											
	3: 80%以上が回答した。			4	2:									
	2: 60%以上が回答した。					3	3:							
	1: 60%未満であった。													

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄						
								評価	人数	コメント				
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 月1回以上更新した。	4	保護者の学校評価の「学校公開や保護者会、HP、たより等を通して学校の様子がよく分かる」に肯定的な回答と「学校は地域の活動や行事に協力的である」に肯定的な回答が	4:	・コロナ禍で、制限される部分もあったが昨年度よりも学校公開の機会を増やすことができた。また、地域教育連絡協議会の外部委員の方々には多くの場面で教育活動を見ていただいた。「防災講話」で地域の方から講話をいただいたり「道徳授業地区公開講座」や「スクエアドストレイト」など、地域の方を招く機会を増やした。 ・学校支援地域本部の方には補習や職場体験先のあっせんや、移動教室の支援員をご紹介いただくなど大変お世話になった。 ・各学年とも毎週学年だよりを発行し、学校の様子を伝えている。学校だよりはHPIにカラー版をアップし、広く報じている。 ・保護者の「学校は、ホームページや便り等を通して、学校の様子を伝えてくれる」の肯定的評価が84%だった。	A	6	○昨年に比べると様々な行事も含み、学校公開の場も増え、参加する機会は多くなった。それだけ学校が努力や工夫がなされるこの厳しい中子ども達にはいい経験に結びついたと思われる。学校支援本部側としては、学校、教員の皆さんとの声を聞き、より相互理解していきたいと思う。 保護者がなかなか行事等に参加できない中での情報発信は、学校だより、ホームページの他にもより積極的なものがあれば良かったと思うが学校はよくやっていた印象である。 コロナ禍で地域のボランティア活動になかなか参加できなかったが、「社会を明るくする運動」等少ないチャンスにしっかりと参加して、地域の方々からは褒めてもらっている。 ○今年度はコロナ対策をしながら工夫して学校公開の機会を増やしてもらいとても伝わりました。感謝申し上げます。 ○学校だよりをいつもいただきありがとうございます。学校の様子がよく分ります。今後、コロナ以前のように学校公開など見学者が戻れば良いと思っています。地域との連携は特に重要です。 ○スクールサポートの学習支援では、英検二次面接の対策など本校ならではの支援もありボランティアの方々へ感謝する。 ○保護者や地域の人に学校に来ていただく機会が増えたのは良いことだと感じる。小中の連携で小学生が中学校に見学に行けたのもありがたい。				
			3: 学期に2~3回更新した。								3	3:		
			2: 学期1回以上更新した。										4	2:
			1: 更新しなかった。											
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4: 毎回情報を提供した。	3				2:						
			3: おおむね情報を提供した。						4		1:			
			2: あまり情報を提供しなかった。									3	3:	
			1: 情報を提供しなかった。											
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4: 学期に2~3回行った。	3				1:						
			3: 学期1回以上行った						4		2:			
			2: 年1回以上行った。									3	3:	
			1: 実施しなかった。											
保護者の理解・協力を得ながら、「新しい生活様式」を実践していく。また、講演会や学習面における補習教室などで地域人材を生かし、生徒の	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	3:											
	3: 80%以上が回答した。			4	2:									
	2: 60%以上が回答した。					3	3:							
	1: 60%未満であった。													

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。